

第八講 スパルタが抱える問題

(1) キナドンの陰謀

少数派のスパルティアタイ

ホモイオイ＝スパルティアタイ

キナドンはホモイオイではない。

ヘイロタイ、ネオダモデイス、ヒュポメイオネス、ペリオイコイ。

アゴラにいた人々のうちスパルティアタイは僅か 40 名。それ以外の人々は 4000 名。1 %。

スパルティアタイに対する激しい敵意の存在。

Xen. *Hell.* 3. 3. 5: οὗτος δ' ἦν καὶ τὸ εἶδος νεανίσκος καὶ τὴν ψυχὴν εὐρωστος, οὐ μέντοι τῶν ὁμοίων. ἐρομένων δὲ τῶν ἐφόρων πῶς φαίη τὴν πράξιν ἔσεσθαι, εἶπεν ὁ εἰσαγγεῖλας ὅτι ὁ Κινάδων ἀγαγὼν αὐτὸν ἐπὶ τὸ ἔσχατον τῆς ἀγορᾶς ἀριθμῆσαι κελεύει ὁπόσοι εἶεν Σπαρτιαῖται ἐν τῇ ἀγορᾷ. καὶ ἐγὼ, ἔφη, ἀριθμήσας βασιλέα τε καὶ ἐφόρους καὶ γέροντας καὶ ἄλλους ὡς τετταράκοντα, ἠρόμην: τί δὴ με τούτους, ὃ Κινάδων, ἐκέλευσας ἀριθμῆσαι; ὁ δὲ εἶπε: τούτους, ἔφη, νόμιζέ σοι πολεμίους εἶναι, τοὺς δ' ἄλλους πάντας συμμάχους πλεον ἢ τετρακισχιλίους ὄντας τοὺς ἐν τῇ ἀγορᾷ. ἐπιδεικνύναι δ' αὐτὸν ἔφη ἐν ταῖς ὁδοῖς ἔνθα μὲν ἓνα, ἔνθα δὲ δύο πολεμίους ἀπαντῶντας, τοὺς δ' ἄλλους ἅπαντας συμμάχους: καὶ ὅσοι δὴ ἐν τοῖς χωρίοις Σπαρτιατῶν τύχοιεν ὄντες, ἓνα μὲν πολέμιον τὸν δεσπότην, συμμάχους δ' ἐν ἐκάστῳ πολλούς.

「この人物は外見からして若者であり、頑強な精神の持ち主であったが、ホモイオイの一員ではなかった。それでエフォロスたちがその企てがどのようなものなのかについて彼が語ったことについて質問すると、その通報者はキナドンをアゴラの端に連れていき、アゴラの中にどれくらいのスパルティアタイが居るのかを数えるように命じたのです。それで私は王やエフォロスたち、長老会の議員たちやその他の者たちを 40 名ばかりを数え上げて、尋ねました。キナドンよ、どうして数えるよう命じるのですか。すると彼はこう答えました。これらの者たちは君にとって敵であり、

アゴラに居る 4000 名以上のその他の人々の全てが味方だと看做したまえと、彼は言いました。そして道で出会う人を、こちらで一人、あちらで二人と指さしながら全てが敵であり残り的人すべてが味方だと私に言いました。たまたまスパルティアタイの所領にいたとしても、敵は主人一人であり、そこに居る多くのものが味方なのだ。」

Xen. *Hell.* 3. 3. 6: ἐρωτῶντων δὲ τῶν ἐφόρων πόσους φαίη καὶ τοὺς συνειδότας τὴν πρᾶξιν εἶναι, λέγειν καὶ περὶ τούτου ἔφη αὐτὸν ὡς σφίσι μὲν τοῖς προσατεύουσιν οὐ πάνυ πολλοί, ἀξιόπιστοι δὲ συνειδεῖν: αὐτοὶ μὲντοι πᾶσιν ἔφασαν συνειδέναι καὶ εἴλωσι καὶ νεοδαμώδεσι καὶ τοῖς ὑπομείοσι καὶ τοῖς περιοίκους: ὅπου γὰρ ἐν τούτοις τις λόγος γένοιτο περὶ Σπαρτιατῶν, οὐδένα δύνασθαι κρύπτειν τὸ μὴ οὐχ ἡδέως ἂν καὶ ὠμῶν ἐσθίειν αὐτῶν.

「それでエフォロスたちがどれくらいの数があるかその行為に通じていると彼が言っていたのかと問い質すと、そのことについて彼はそのような指導者となる人々は決して多くはないが、信頼に足る人々が通じていると彼が言ったと述べたのである。そのような人々は全てのヘイロタイやネオダモデイス、ヒュポマイオネス、それにペリオイコイに通じている。これらの人々においてスパルティアタイについて議論される時には、誰も喜んで彼らを生で食ってしまえるのだということを隠しておくことはできないのだ。」

Xen. *Hell.* 3. 3. 11: ἐπεὶ δ' εἰλημμένον τοῦ ἀνδρὸς ἦκεν ἵππεὺς φέρων τὰ ὀνόματα ὧν ὁ Κινάδων ἀπέγραψε, παραχρῆμα τὸν τε μάντιν Τισαμενὸν καὶ τοὺς ἄλλους τοὺς ἐπικαιριωτάτους συνελάμβανον. ὡς δ' ἀνήχθη ὁ Κινάδων καὶ ἠλέγχετο, καὶ ὠμολόγει πάντα καὶ τοὺς συνειδότας ἔλεγε, τέλος αὐτὸν ἤροντο τί καὶ βουλόμενος ταῦτα πράττει. ὁ δ' ἀπεκρίνατο, μηδενὸς ἦττων εἶναι ἐν Λακεδαιμόνι. ἐκ τούτου μὲντοι ἤδη δεδεμένος καὶ τῷ χεῖρι καὶ τὸν τράχηλον ἐν κλοιῷ μαστιγούμενος καὶ κεντούμενος αὐτὸς τε καὶ οἱ μετ' αὐτοῦ κατὰ τὴν πόλιν περιήγοντο. καὶ οὗτοι μὲν δὴ τῆς

δικης ἔτυχον.

「この男が捕縛され、キナドンが書き出した名簿を携えて騎士が戻ってくると、直ちに預言者のティサメノスやその他の重要人物を彼らは逮捕したのであった。キナドンは連行されて尋問を受けると、全てを認め、共犯者を自白したが、最後に彼らは彼が何故このようなことを行おうと望んだのかを尋ねたのであった。ラケダイモンにおいて誰にも負けたくないのだと彼は答えたのであった。この後、彼と彼の仲間たちは手枷首枷をはめられ鞭打たれながら市中を引き回された。そのような判決を彼らは受けたのであった。」

(2) オリガントロピア (市民人口減少)

一般に前4世紀のスパルタは市民人口の過剰な減少に悩まされていたと言われている。

ペルシア戦争当時、スパルタは市民兵が5000名、ペリオイコイ兵が5000名、ヘイロタイ兵が35000名と伝えられている (Hdt. 9. 28)。

前425年のスファクテリア島の戦いで捕虜となったラケダイモン兵292名のうちスパルタ市民兵は120名であった (Thuc. 4. 38. 5)。その比率は41%。

前418年のマンティネイアの戦いの時、スパルタは全軍の6分の5、448名×8列=3584名 (Thuc. 5. 68. 2. Cf. 64. 3)。全軍で4300名になるが、市民兵の数は分からない。スファクテリア島の捕虜の比率を仮に当てはめるとすればスパルタ市民兵の総数は1763名。

Cf. フォレスト (210頁) : マンティネイアの戦い当時のスパルタ市民兵の総数2500名又は3360名。

前371年のレウクトラの戦いに参加したラケダイモン軍は第35年次兵までの4箇モラー。スパルタ市民兵は700名。本国に2箇モラーが後置されていたと伝えられているので、単純計算で第35年次兵までのスパルタ市民兵の数は1050名。それに第35年次兵以上の老年兵や役職者を加算しなければならないので、仮に1200名がスパルタ市民の総数と想定する。一般にモラーの規模を600名と想定しているので、ラケダイモン全体としては3600名。スパルタ市民兵の比率はおおよそ40%。この比率はスファクテ

リア島での捕虜の比率に近似している。

マンティネイアの戦いからレウクトラの戦いまでの 47 年間に、ラケダイモン全体としては 700 名、16%の減少、スパルタ市民兵に関しては 563 名、32%も減少していることになる。スパルタ市民兵の減少がラケダイモン全体の減少の原因であることを示している。

Cf. フォレスト (210 頁) : 2550 名 (レウクトラに参加したスパルタ市民兵 1700 名。

それに対する対応としてスパルタ市民兵とペリオイコイ兵との混成部隊編成の採用。ブラシデイオイやネオダモデイスなどのヘイロタイ解放兵の活用。

Arist. *Pol.* 1270a 35-39: τοιγαροῦν δυναμένης τῆς χώρας χιλίους ἰππεῖς[30]τρέφειν καὶ πεντακοσίους, καὶ ὀπλίτας τρισμυρίους, οὐδὲ χίλιοι τὸ πλῆθος ἦσαν. γέγονε δὲ διὰ τῶν ἔργων αὐτῶν δῆλον ὅτι φαύλως αὐτοῖς εἶχε τὰ περὶ τὴν τάξιν ταύτην: μίαν γὰρ πληγὴν οὐχ ὑπήνεγκεν ἡ πόλις, ἀλλ' ἀπώλετο διὰ τὴν ὀλιγανθρωπίαν. λέγουσι δ' ὡς ἐπὶ μὲν τῶν προτέρων[35]βασιλέων μετεδίδοσαν τῆς πολιτείας, ὥστ' οὐ γίνεσθαι τότε ὀλιγανθρωπίαν, πολεμοῦντων πολὺν χρόνον, καὶ φασιν εἶναι ποτε τοῖς Σπαρτιάταις καὶ μυρίους: οὐ μὴν ἀλλ', εἴτ' ἐστὶν ἀληθῆ ταῦτα εἴτε μὴ, βέλτιον τὸ διὰ τῆς κτήσεως ὠμαλισμένης πληθύνειν ἀνδρῶν τὴν πόλιν. ὑπεναντίος δὲ

「それ故その地は 1500 騎の騎兵、1000 名ではなく、30000 名もの規模の重装歩兵を養うことができたのである。彼らのそのような取り決め（贈与および遺贈の自由のこと：訳者）が彼らには有害であったことは結果そのものによって明らかとなった。というのはたったひとつの敗北によってそのポリスが衰退したのではなく、人口過少（オリガントロピア）によって壊滅してしまったのだ。かつての王たちの時代には市民権を分かち合い、長年にわたって戦争をしていたけれど、人口過少ではなかったと人々は言うており、かつてスパルティアタイは一万人もいたと言っている。それにも拘わらず、それが事実であれ事実でないということであれ、ポリスが財産を平等にすることによって人口を増やすほうが優れている。しかし出産に

関する法律はそれとは反対の処遇である。」

参考文献

P. Cartledge, 2002: *Sparta and Lakonia: a regional History 1300 to 362 BC.*, London/ New York.

W. G. Forrest, 1968: *A History of Sparta 950- 192 BC.*, London.

A. H. M. Jones, 1968: *Sparta*, Oxford.

G. Shipley, 2004: “Lakedaimon”, in: M. H. Hansen & Th. H. Nielsen (eds.) *An Inventory of Archaic and Classical Poleis*, Oxford/ New York, 570.

太田秀通, 1977: 『東地中海世界』、岩波書店、126-170。

W. G. フォレスト (丹藤浩二 訳) , 1990: 『スパルタ史』、溪水社。

古山正人, 1984: 「ヒュポメイオネス考 -スパルタ社会の変容の一側面-」『新潟史学』17、38-56。

同 , 1984: 「ネオーダーモデイス -ヘイロータイの解放と軍役-」『西洋史研究』新輯13、53-77。

同 , 1989: 「モタケス、トロフィモイ、スパルティアタイのノトイ -スパルタの小社会集団-」『歴史学研究』597、2-18。